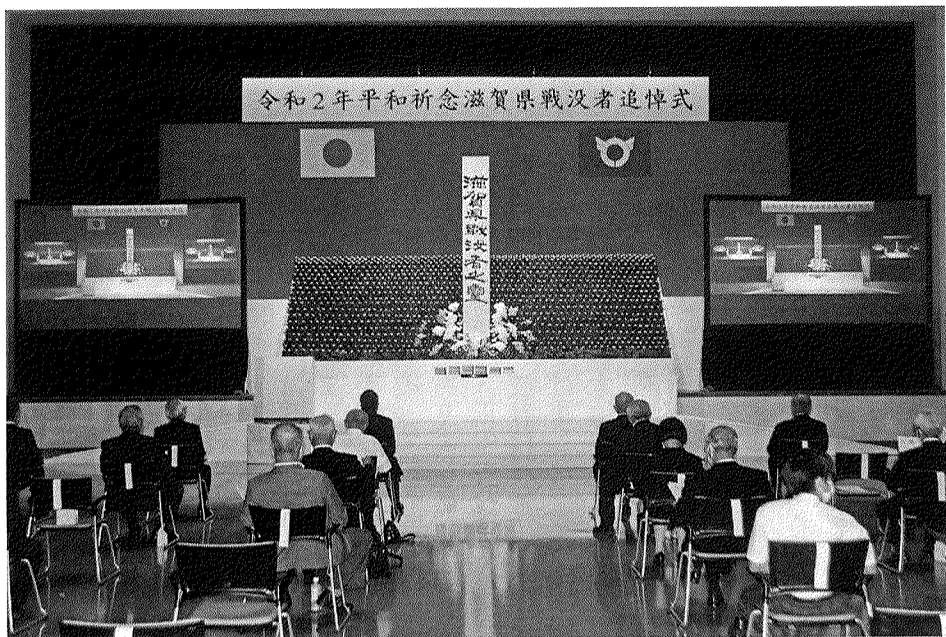


# 悲慘な歴史繰り返さぬ 決意新たに



コロナ禍の中、県遺族会役員と郡市町代表者の61人が参列

会場には、神田浩山滋賀県書道協会理事長の揮

今年で7回目となる滋賀県主催の令和2年平和祈念戦没者追悼式が8月29日、米原市の滋賀県立文化産業交流会館で開催された。例年、多数の遺族会員参列のもと行われてきた式典は、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、感染防止のため、滋賀県遺族会役員および県下郡市町の代表者のみ61人が参列して進められた。

## 令和2年平和祈念 滋賀県戦没者追悼式



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34  
滋賀県遺族会館  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会会長  
大長 弥宗治

毫による「滋賀県戦没者之霊」の標柱と菊花1300本で飾られた祭壇が据えられ、左右には登壇者や字幕、手話通訳の映像を映し出す大型スクリーンが設置された。また、壇上正面に県内3万2千余柱の戦没者名と出身地が記載された芳名帳が祀

られる中、式典が挙行された。式典の司会進行は、滋賀県遺族会青年委員会の貴多裕美子さんによって行われた。国歌が演奏された後、三日月大造滋賀県知事は式辞で「いまだ、はるか北の大地や南の島々に眠り、ふるさとへのご帰還を果たされていないご遺骨のことも、私たちは忘れてはならない。戦争の悲惨さと平和の尊さをしっかりと次の世代に語り継いでいくことは、今に生きる私たちの使命であり、今後も様々な機会を通じて、戦争の記憶を次世代に伝えていく」と決意を述べられた。

一同黙祷の後、細江正人滋賀県議会議長、大長弥宗治滋賀県遺族会会長が追悼の辞を述べた。大長会長は「悲惨な先の大戦が最終して75年の歳月が流れた。時は流れても、かけがえのない子や夫を一枚の赤紙、召集令状で奪われた親たち、最愛の夫を亡くして路頭に迷う母たちの辛くも悲しい道



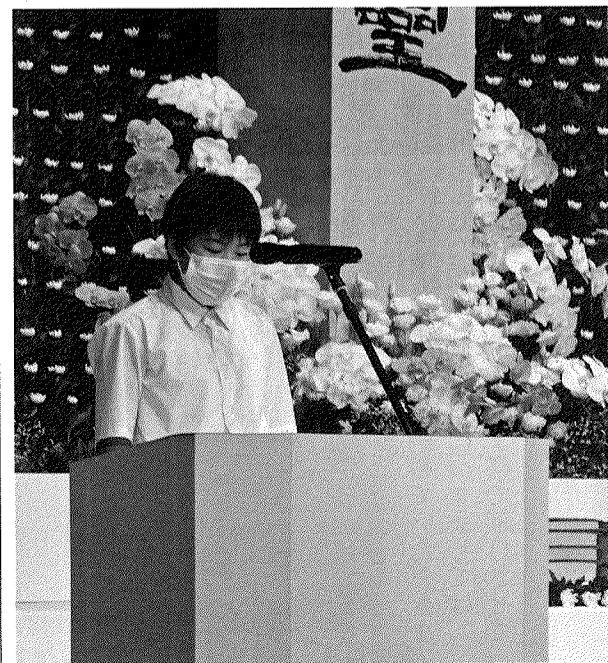
式辞を述べる三日月知事

のりは、今も癒やされることはない。戦争を知らない世代が8割を超え、戦争の風化が大きな課題となっている。私たちは、悲惨な悲しみの歴史を二度と繰り返さない決意を新たに、戦争の悲惨さと愚かさ、平和の尊さを風化させることのない

戦争がどうやったらなくせるかと、何万人という人が考えてきたかも知れません。しかし、それでも世の中から戦争は消えていません。それは言葉で表せるほど簡単なことではないからでしょう。世界を見ても、今現在戦争はなくなっています。それだけ戦争をなくすことが難しいのでしょうか。

### 平和メッセージ 対話による相互理解で 戦争なくしたい

大津市立打出中学校1年 川部 昂



平和メッセージを発表する川部さん

今まで戦争とは、武力で何かを解決するものだと簡単に考えていました。しかし、私は学ばずともいろいろと気づくことが出てきました。戦争はそれだけではないことに。勝ったものは正義になり、負けたものは悪になります。例えば、第二次世界大戦の時、ナチスドイツによるユダヤ人大量虐殺が

ありました。これは残忍で大変恐ろしく、許されない行為です。しかしどうでしょう、当時のアメリカ軍が広島と長崎に原子爆弾を落とすと、数十万人の人々を一瞬にして死に至らしめる大量虐殺を行いました。爆発地域の住民を巻き込む大量虐殺です。これは、ナチスドイツの行った虐殺と同じようなことではないのでしょうか。同じ虐殺を行っても、最終的に戦争に負ければ裁判にかけられ、罪で恐ろしいだけの残酷なと言われ処罰され、勝利すれば正義で大量虐殺をしても、戦争を終わらせるためには必要なことだったと、罪に問われることなく済まされます。戦争は理不尽で不条理なものではありません。戦争に真の正しさはありません。戦争は人々を苦しませ、悲しませ、何も良いことがありません。平和ほど困難で、実現が難しいものはないと思います。しかし、戦争はなくなると思いませんか。一人ひとりが協力し、世界中の人々が努力すれば平和は実現できると思います。そのためには世界中の人々と対話し、相互理解を深めることが大切だと思います。それだけではなく、相手が自分と違う考えを持っているとき、相手を差別したり、無理矢理同じ考えに持たせようとするのではなく、相手が何故違う考えを持っているのかを聞いて、その理由についてよく考えてから行動に移さないと、相手のことを理解できないかも知れません。一人ひとりの考えが尊重されるべきであって、自分の考えだけが正しいのではないことを理解しないと、良いことになりません。なので、対話をして、自分と相手の考えの違いをしっかりと考えて話さないと、相手にも自分にも良くないと思います。これが平和を実現することに繋がると思っています。



# 全国戦没者追悼式

## 節目の年に参列して

彦根市遺族会 西田 惣次郎

全国戦没者追悼式には一度参列させて頂いたが、あれから早30余年が過ぎました。7、8年前より再度の参列が認められ、もう一度参列したい思いから毎年応募していましたが、なかなか当たらず、今年は節目の年でもあり、何としてみてもこの思いから応募しました。

内はコロナは大丈夫かと気にしていましたが、父のことを思えば気にはなりませんでした。

滋賀県の参列者は20人と聞いていましたが、当日になり5人になったと聞きました。所期目的貫徹のみと気にはなりませんでしたが、新幹線も空いていましたので密の心配もなく、新横浜で降り、バスの中で昼食弁当をいただきました。早くホテルに着き、自由行動ですが外には出られず、電話をしたりテレビを見たりですぐ時間は経ちました。

今年にはコロナウイルス蔓延により、どうなることかと思っていました。8月に入り滋賀県より参加の内定をいただき心弾みしました。その後、県より代表献花をしてくださいませんかとの連絡をいただき、喜んでさせて頂いた。ご返事いただきました。家



献花をする遺族代表の皆さん

当日は、朝よりバスにて北の丸公園の武道館へ。入館には体温検査、持ち物検査等厳重でした。今年、20府県が欠席とのこと、会場はすくなく空いていました。昨年の1割位とのことでした。国歌の斉唱はなく演奏のみ。献花も例年は6、7人

が一度にされるが、今年3人が一組で献花するよう言われ、また献花の手渡しはなく、花台から取って献花する旨説明がありました。

正午の時報を合図に戦没者に対し一同黙祷を捧げました。安倍内閣総理大臣の式辞に続いて天皇陛下がおことばを述べられた後、衆議院議長・最高裁長官、最後に遺族代表として静岡県の杉山英夫様が追悼の辞を述べられました。

天皇皇后両陛下に目の前でお目にかかれたことに感動し、父の引き合わせと感謝いたしておりました。天皇皇后両陛下ご退席

## 英霊に想いを寄せて

近江八幡市遺族会青年部 井上 登志子

戦後75年の節目となる8月15日、日本武道館での全国戦没者追悼式は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、過去最小の規模となりました。マスク、消毒、ソーシャルディスタンスを保ち、厳重な注意の中、参列が叶わなかった遺族の方々の思いと共に、感慨深い思いで、参列させて頂きました。

私の祖父は、昭和18年

の後、献花となり、ご来賓に続き、日本遺族会水落敏栄会長を筆頭に、滋賀県は7組目で心を込めて献花させて頂きました。

今日の平和と繁栄は、戦没者の尊い犠牲の上に築かれたものであるという事を忘れてはならないし、次世代に伝えていきたいと存じます。

今年も、安倍総理大臣の靖国神社への参拝はありませんでした。4閣僚の参拝でしたが、私たちが遺族は総理大臣にお参りいただきたく。これは遺族の願いでもあり、戦没者の願いでもあると存じます。

この度の追悼式参列は私にとって冥土の土産にしたいと存じます。県健康福祉政策課の皆様にはいろいろお世話になりました。ありがとうございました。

10月8日、レイテ島沖合にて、米軍の雷撃を受け、艦船が沈没、34歳で戦死いたしました。大切な家族を残し、大切な命を祖国の為に捧げ、何を思い、遠い異国の海に散ったのかを思うと、今も胸が苦しくなります。



全国戦没者追悼式での正午の黙祷

## 第44回みたま祭 厳粛に神事のみ挙行

祭祀委員会「みたま」委員長 吉島 利博

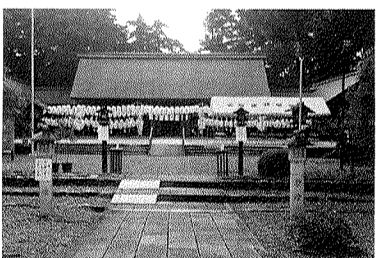
終戦から75年の節目の今年、第44回みたま祭は、当初例年通り行うこととしておりましたが、新型コロナウイルスの感染が第2波に入ったと判断せざるを得ない状況となり、感染症防止のため、提灯と短冊、金魚すくいを中止して、神事のみを実施することに決定されました。

8月13日の奉告祭並びに感染症早期沈静祈願祭は、大長弥宗治滋賀県遺族会長はじめ県下各都市町の代表者参列のもと、3日間の祭の恙なき実施と感染症の早期沈静を祈願されました。

15日には滋賀県護国神社主催の終戦記念式典が執り行われ、国会・県議会・市議会の議員と市町長の来賓参列のもと、山本賢司宮司の祝詞奏上、大長会長および来賓の玉串奉奠後、正午の時報に合わせて黙祷し、御霊の安らかならんことを願われました。

同日夕刻5時30分からは、県遺族会主催の県下戦没者慰霊祭が行われ、大長会長が「県下3万2500余英霊のご冥福と、これからも平和が続く事を祈り祭を閉じる」と挨拶され、無事3日間を終えることが出来ました。

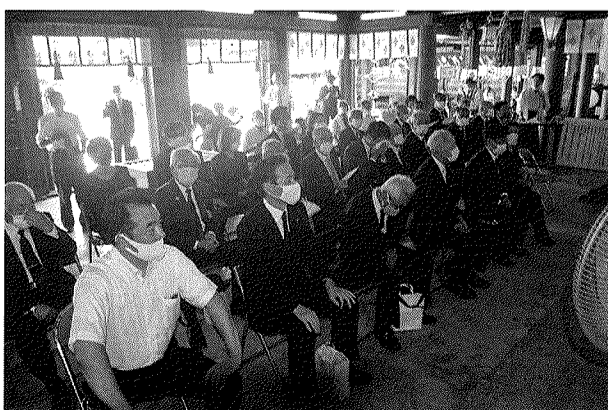
境内には数多くの提灯は無く、県遺族会並びに企業様からの提灯と山本宮司の「神を祀り福を祈る」の行燈および彦根市立城西小学校の「放課後児童クラブ」の子供たち50人の作品行燈がつるさ



式典会場の滋賀県護国神社



県下戦没者慰霊祭で玉串を捧げる大長会長



終戦記念式典に参列する議員ら

# 提言

## 遺族会その継続への可能性について

彦根市遺族会 夏川 嘉一郎

戦後75年が経過。当然のことながら、当遺族会の高齢化は限界に達しつつあり、それに伴っての活力低下や意識の希薄化等は、もはや否めない事態となってきた。当会は正に、存続の危機に直面していると言っても過言ではない状態です。このことは既に人々の周知するところでもあります。

さて、前途に赤信号点滅とも見える当会ですが、今ここで問題とすべきは、再建への可能性の有無ではないかと考えます。私は「有り」と考え、ここで可能性に繋がると思えるヒント又はキーワードを数件提案しておきたいと思えます。

先ず1番目のキーワードです。「継続を可能ならしめる為には、より広範な人々を結集させ得る体制作りが必要では」。今後の組織継続のためには、より多くの人々を一つの旗の下に結集させ得る体制作りが不可欠ではないでしょうか。

離は益々縮まりつつあります。会の基幹コンセプトを「世界恒久平和実現」に設定することは、時代の求める方向と考えます。最後は、継続にかかわるまためのキーワードであります。「組織の継続・成功は変化する社会情勢に合わせて如何に自らを変革・適応させ得るのかにかかっている」。これは組織継続の原理・原則にかかわるキーワードであり、成功者に共通する鉄則でもあるのです。当遺族会の現状打開にも活用できる原理で有り、事態打開のヒントとして参考にするべきではないでしょうか。

今更だ、遺族福祉の向上や御霊の尊厳化等にもそれなりのお力添えはしてまいりましたが、未だ本丸には達せず、でありまして。本丸即ち「世界恒久平和実現」に足を踏み入れてこそ、真に御霊の想いに近づいたと言えるのではないのでしょうか。私はそのように確信するのがあります。

先の大戦、大東亜戦争が終る2週間前の昭和20年7月30日、暑い夏の悲しい出来事は75年経っても忘れることはできない。亡くなった多くの人の無念の思いを語り継いでいきたいと思います。

東近江市永源寺地区で、9歳(山田久司君)と6歳(忠雄君)の兄弟が両親の目の前で米軍のグラマン機銃掃射で亡くなった。両親は言うに及ばず恩師の無念さ、私たちが同級生の深い悲しみは消えることがない。

また、宮古島から復員した私の父は「グラマンが奇襲する、恐ろしい」と言いながら、母と祖母の看病も虚しく、4カ月足らずで自ら死を選んだ。同級生、続く父の死は僕に深い悲しみを与え、決して忘れることができない。大地を、そして人を焼き尽くした先の大戦は、大きな悲しみと怒りを残し、その痛ましい記憶は今も胸に焼き付いて離れない。我々は、戦争の惨禍を決して風化させてはならない。それは永遠の平和を望んでやまない我々の責務である。その時の友人代表の甲辞を公開し、戦争というものの罪悪と平和の尊さを改めて訴えたい。

## 戦後75年経過した今

英霊顕彰委員会委員長 岡本 勝一



大東亜戦争終結後75年が経過しました。今

日まで我が国は、ひたすら平和を重んじる国として邁進してきたと思えます。あの忌まわしい惨禍を二度と再び繰り返すことのないように、これからも我々は積極的に平和を求め続けなければなりません。現在、国民の85%が戦後生

行かなければなりません。しかし、我々遺族会も組織の中核を担っている遺児の平均年齢が満78歳を越えている今、これからの遺族会活動を考えたとき、様々な問題を抱えていることも事実ですが、私は遺児だからこそ、機会ある毎に戦争の悲惨さ、人の命の尊さ、平和の大切さを子々孫々まで語り継いでいくことが使命だと思えます。

私も今年度から滋賀県遺族会の理事を仰せつかりました。英霊顕彰委員会の一員として、海外戦跡慰霊巡拝等を通して英霊顕彰の灯火を絶やすことなく、次世代の子ども等に戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでいきたいと思います。

仲が良かった久司君は同級生で葬儀にも出た。僕が久司君の思い出話を母みよさんにしたら、「よう話してくれ

先の大戦、大東亜戦争が終る2週間前の昭和20年7月30日、暑い夏の悲しい出来事は75年経っても忘れることはできない。亡くなった多くの人の無念の思いを語り継いでいきたいと思います。

また、宮古島から復員した私の父は「グラマンが奇襲する、恐ろしい」と言いながら、母と祖母の看病も虚しく、4カ月足らずで自ら死を選んだ。同級生、続く父の死は僕に深い悲しみを与え、決して忘れることができない。大地を、そして人を焼き尽くした先の大戦は、大きな悲しみと怒りを残し、その痛ましい記憶は今も胸に焼き付いて離れない。我々は、戦争の惨禍を決して風化させてはならない。それは永遠の平和を望んでやまない我々の責務である。その時の友人代表の甲辞を公開し、戦争というものの罪悪と平和の尊さを改めて訴えたい。

米英ノニクイ仇ハドンナコトヲシテモトツテミセル。今ダツテ僕ハ出来ルコトナラ叩キ落トシタイ氣持チデ、大キナ拳ヲ握レテクル。久司君、僕達ハ君ノ分マデ頑張ルツモリデイルカラ、安ラカニ天国デ僕達ノ活躍ヲ見テイテクレ給ヘ。初等科2年生ノ代表トシテ、心カラ才悔ヤミ申シ上ゲマス。昭和20年7月31日 市原西国民学校初等科2学年 宮川 亨

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

「現在日本の平和と繁栄は、先の大戦で尊い命を犠牲にされた多くの戦没者の礎の上に築かれている」ことを改めて再認識し、後世に語り継いで

## グラマン機銃掃射 二人の学友の死を語り継ぐ

東近江市遺族会 久田 政男

先の大戦、大東亜戦争が終る2週間前の昭和20年7月30日、暑い夏の悲しい出来事は75年経っても忘れることはできない。亡くなった多くの人の無念の思いを語り継いでいきたいと思います。

また、宮古島から復員した私の父は「グラマンが奇襲する、恐ろしい」と言いながら、母と祖母の看病も虚しく、4カ月足らずで自ら死を選んだ。同級生、続く父の死は僕に深い悲しみを与え、決して忘れることができない。大地を、そして人を焼き尽くした先の大戦は、大きな悲しみと怒りを残し、その痛ましい記憶は今も胸に焼き付いて離れない。我々は、戦争の惨禍を決して風化させてはならない。それは永遠の平和を望んでやまない我々の責務である。その時の友人代表の甲辞を公開し、戦争というものの罪悪と平和の尊さを改めて訴えたい。

米英ノニクイ仇ハドンナコトヲシテモトツテミセル。今ダツテ僕ハ出来ルコトナラ叩キ落トシタイ氣持チデ、大キナ拳ヲ握レテクル。久司君、僕達ハ君ノ分マデ頑張ルツモリデイルカラ、安ラカニ天国デ僕達ノ活躍ヲ見テイテクレ給ヘ。初等科2年生ノ代表トシテ、心カラ才悔ヤミ申シ上ゲマス。昭和20年7月31日 市原西国民学校初等科2学年 宮川 亨



この悲劇は新風書房『孫達への証言』に掲載された



草でよく見えないが左手あたりの側壁に弾痕がある



# コロナ禍で思うこと

東近江市遺族会 今堀 治夫

昭和20年1月、大東亜戦争で父が南西諸島沖にて、無念の最期を遂げてから早くも75年という節目を迎えています。一方母は父が帰らぬ人となつて以降、戦後の厳しい荒波の中で家を守り、祖母の面倒をみながら、失った一家の大黒柱に代わって、筆舌に尽くしがたい苦勞に苦勞を重ねながら私を育て上げてくれました。その母が昭和63

年3月に他界してから丁度今年33回忌を迎えました。本年3月には父母の法要を厳修するべく、年明けから準備を重ねてきたのですが、突如新型コロナウイルスによる感染が全国的に蔓延することとなり、やむなく先送りすることにいたしました。それ以来、父母の法要を一日も早くとの思いでここ数カ月間、感染状況が落

ち着くの待ち続けてきたのですが、今ここに来て大都市圏を中心に第2波の襲来とも言われているように感染者が続出拡大し、中でも若者が大変多いとのこと。そして感染している若者の多くはさらしたる症状もなく、自らそのことに気づかないまま、結果として第三者に感染させてしまっているケースがとみに多いことを報道で知らされました。

翻って、私の2人の子供たちは20歳代の家族とともに、現在東京と大阪のど真ん中で勤務し生活を

## 滋賀県護國神社の清掃作業と青年部・女性部合同会議

女性部会長 中川 真澄

9月13日、青年部10人、女性部16人と森野愛子事務局長の参加を得て、滋賀県護國神社の清掃作業を行った。神前を掃き清めることは、ご祭神への敬意と感謝を表す行いであるとの思いからである。

女性部では護國神社の春・秋の例大祭前に恒例行事として、ご奉仕させていただいている。奉仕作業を終え、自らの心身も清らかなり、午後から青年部の皆さんとの合同会議に移った。

今回は、青年部・女性部がそれぞれの役割を認識し、望ましい方向性を確認するため、「一人ひとりの思いを活かした、次世代遺族会とともに創造する」という目的で話し合いの場を持った。

参加者お一人おひとり、それぞれの立場から所感を述べていただく中で、世代による思想の違いを感じることができた。以下に具体的な意見を要望事項を記す。

- \* 青年部からの意見
  - \* 青年部会員を増やすため、どのように働きかけをしたら良いか模索している。
  - \* 青年部会員の方に、今回のような会議に参加していただけたら有り
- \* 女性部からの意見
  - \* 女性部の皆さんからお子さんに参加を促すよう声かけをお願いしたい。
  - \* 本会の体制を引き継ぐことは、現時点では職があるため難しい。長い目で見ていただきた
  - \* 現在行われている事業が必要なのか検討していきたい。
  - \* 活動のスリム化も含め、中身のあるものを作りか考えていきたい。
  - \* 青年部からの案内が末端まで届いていないのではないかと、また途中で止まっているのではないのか、と危惧。

- \* 青年部を卒業して、早く本会に入ってほしい。
- \* 子どもは遺族会継承の気持ちを持ってほしいが、現在は活動できない。
- \* 青年部の人たち全員に

案内が届いているか心配。今回このような形で意見交換の場を持つことにより、「一人ひとりの思いを活かした次世代遺族会とともに創造する」という趣旨に近づけたのではないかと感じている。青年部の皆様からの多角的なご意見に、時に思考が奪われ、また長年貢献し続けてこられた女性部皆様の心からの要望に、本質に迫る気概を感じた。中でも、「活動のスリム化」という視点からの論考は、遺族会事業に重要な光を当てたようである。実現は難航を極めるが、革新的な新しい世界に向かって行こうとする一面を垣間見たようで、淡い期待を覚えた。

## 女性部の思い

女性委員会委員長 前田 いそ

新型コロナウイルス感染症が増える中、遺族会事業も自粛や中止が多く、女性部も委員会が開催できず、話し合いの場もできないのが現状です。その女性部では、例年通り特別会員（お母さん）に暑中見舞いをお出しすることをお母さんや先輩にいろいろ教えてもらってやってこられたことを感謝して

戦後75年が経過し、戦争を知らない世代が多くなってきました。でも、今年度青年部の中川真澄さんが女性部会長として女性部に入ってください、心強く思っています。青年部の意見も聞き、女性部の思いもしっかり伝えていき、一日でも早く青年部に引き継いでもらえるようお願いしながら、その日まで女性委員さんにご協力していただき、力を合わせ頑張って貢献していきたく思います。

# 第47回靖國神社昇殿参拝旅行

## コロナ禍で全員参拝を自粛

役員による代理参拝

新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度の第46回靖國神社昇殿参拝旅行は急遽中止せざるを得ませんでした。今年度に入り、感染拡大はある程度抑えられているものの、先行き不透明と言わざるを得ない状況です。

つきましては、代理参拝の対象となる滋賀県遺族会の役員の皆様方には、是非ともご参加いただきませうようお願い申し上げます。

日程	行程
3/7 (日)	JR米原駅8:57発 == ひかり642号(※車中にて昼食のお弁当を準備) == JR品川駅11:05着 == 靖國神社昇殿参拝 11:50~13:30 == 首都高速(車窓からレインボブリッジ等) == 海老名SA(休憩) 15:10~15:30 == 伊東温泉「ホテル聚楽」(静岡県伊東市岡281) 17:00頃着
3/8 (月)	ホテル聚楽8:30発 == 伊豆フルーツパーク(買い物) 9:20~9:50 == 富士山世界遺産センター(見学) 10:30~11:20 == 浅間大社(参拝) 11:35~12:05 == 焼津さかなセンター(昼食) 13:20~14:50 == 岡崎SA == 養老SA == 米原IC == JR米原駅にて解団 19:00頃

◆集合場所・時間：JR米原駅新幹線改札口前・午前8時20分  
◆旅行代金：一人4万1000円(個室希望の方は別途部屋代1万1000円必要)  
◆募集人員：100人(コロナ感染状況により中止の場合あり)

コロナ感染拡大への取り組み  
◀近江鉄道観光バス▶ 1台あたりの乗車人員を定員の50%以下に設定/換気機能(外気導入モード)により車内空気を約6~7分で全て入れ換え/乗務員は出発前の検温とマスクの着用、手洗いを徹底/車内に消毒液の設置  
◀ホテル聚楽▶ 1部屋の利用人員3~4人(通常6~8人)/宴席は間隔を空けて配置/館内各所に消毒液を設置/従業員のマスク着用と健康チェックを徹底

# 語り継ぐ、残された傷跡

## 守山空襲

語り継ぐ、残された傷跡

守山市遺族会会長 山川 芳志郎

昭和20年7月30日は朝からむし暑い日でした。その日の午後4時過ぎの出来事です。アメリカの空母ハンコックから発進したグラマン戦闘機によって守山の街は空襲を受けました。

守山駅を発車して間なしの列車を4機の戦闘機が攻撃し、駅に向けて機銃掃射を浴びせました。この一瞬の出来事で列車の乗客や駅周辺の人々が犠牲となりました。その数は確認されているだけで死者11人、負傷者22人とされています。1両目から4両目に兵隊さんが乗車されており、これが狙われたと言われている



会場で中学生に説明する山川会長

今思えば、平和で豊かなこの守山でこんなむごいことが起こったことは想像できません。大阪から私の住む伊勢町や隣の阿村町の寺に学童疎開の児童が来ていましたし、軍事施設はありません。それだけ安全な場所だったのです。

あれから75年。当時5歳だった私は80歳になりました。当時の守山空襲を知る人がほとんど亡くなりました。私たちが遺族会はこの風化を少しでも止めようと2つの活動をしました。

(1) 守山空襲がすぐ分かる大型ポスターを作り、被害に遭った守山駅(守山駅前総合案内所)に掲示しました。また、この大型ポスターを7つの地区会館に掲示すると同時に、市内各自治会にある掲示板523カ所全てに小型ポスターを掲示し、先ず知ってもらおうとしました。もう一つ、



各所に掲示された守山駅など、被害にあった守山駅など、各所に掲示されたポスター

守山市が発行する「広報もりやま」(1日と15日発行)の8月1日号の表紙に採用していただきました。

(2) 守山市遺族会はこれまで、今年で28回目を数える「平和のよろこび展」を開催してきました。このよろこび展は例年ですと、遺族が持っている遺品展示、戦中・戦後の生活用具の展示等をしており、約300人が来場されています。

今年7月1日で守山市制50周年を迎えたので、今の平和で豊かな守山市の歴史を悲しい、つらい過去を振り返るために特別企画として「守山空襲」を取り上げることになりました。また、滋賀県平和記念館で6カ月間、守山空襲を特別企画として展示され、この準備に守山市遺族会も少しお手伝いさせていただいたこともあり、この大半を借用し展示しました。守山市遺族会も独自に無縁仏の埋葬地をはじめ、守山空襲にかかる遺品など詳しく追加調査し展示しました。

この平和のよろこび展を開催するにあたり、大きなハードルはコロナ対策です。宮本和宏守山市

長から私に打診がありました。私は「十分対策を取り、開催したい」旨を伝えましたところ「やってください」とのゴーサインをいただきました。考えられる対策は十分に取りました。結果、市内668人、市外159人、計827人の来館者があり、例年の300人を大幅に上回る多くの方がおいでくださり、無事終了できました。

問題点は、ほとんどの人が守山空襲を知らなかったことです。今回、「語り継ぐ、残された傷跡」という合い言葉を作りまし。この守山空襲で残された傷跡は大きく4つあります。

①吉身町共同墓地の6体地蔵の頭部が全て傷ついている。②Y氏宅に機銃掃射を受けた傷跡が、天井や壁など9カ所残っている。③無縁仏が埋葬された墓地がある。④負傷者が治療を受けた病院等を記録した当時の証言集が残っている。

これらの傷跡を小・中・高生の平和学習や、市内の各種グループの学習会に提示し、風化を少しでも止められたらと思っています。毎年、小学校の修学旅行の事前学習には多い年では6校程度招待されますし、今年には中学校からも依頼が入りました。

県下の空襲被害としては、昭和20年7月24日、大津市の東洋レヨンに落とされた模擬原爆で16人が犠牲になりました

## コロナ禍の夏

日野町遺族会 横田 勝弘

が、守山空襲はこれに次ぐものです。これらの残された傷跡を次世代に語り継ぎ、平

和の尊さ、人と人との殺し合いのむごさ、不合理さを訴えていきたいと思っています。



遺族会代表による献花



町長に要望書を提出

令和2年8月8日、日野町主催の戦没者追悼式が「わたむきホール」で開催された。町内一斉に鳴り渡るサイレンと同時に、式場では来賓の滋賀県知事代理中條絵里副知事出席の下、黙祷が始まり、式次第に則り追悼式は滞りなく終了した。

今年の大きな特徴は、コロナ禍により会場設営が大幅に変更されたことである。毎年、日野町出身戦没者1000余柱の家族と関係者など200余名が参列した会場も、今年は見直しを余儀なくされ、総勢20余人の規模に縮小せざるを得なかった。

座席間隔1メートル、マスク着用等の通常では考えられない対応を理解するも、多くの参列が叶わず残念でならない。この上は一刻も早くコロナ禍の終息を願うばかりである。

追悼式に先立ち、町役場において日野町遺族会から堀江和博町長に「要望書」を手渡し、懇談する機会が設けられた。追悼式典への遺族会の参列者も年々減少傾向にある中、戦争の愚かさ、平和の大切さを考え、後世に語り継ぐ式典の継続、次

世代の更に充実した組織作り等の協力をお願いした。堀江町長からは他市町の動きも参考に前向きに検討したいという言葉

近年、日本の歴史で、我が国は侵略者でアジア諸国を苦しめた、と教えられてきました。確かにそのことはアジア諸国に対して、謝り続けてゆかねばなりません。しかし、英霊たちのお陰で、戦後アジア諸国は独立を果たし、かつ日本の国体を守ったことを忘れてはなりません。それを忘れ、日本イコール悪だ、と片付けるのは英霊に対して無礼です。私たちは、今日の日本を守った英霊に感謝し、生き続けたいと思います。

父の像、母の像、拝見しました。横にある説明文を読み、戦争のつらさ、悲しさがひしひしと伝わってきました。亡くなった人たちの多さに驚きました。とても勉強になりました。来て良かったです。(野洲市 中学生)

◆滋賀県護国神社 英霊顕彰館だより◆

皆様のお写真を拝見し、とても悲しく、現実

【来館者数】

5月	10人
6月	14人
7月	22人
8月	36人
9月	12人
10月	4人

(10月3日まで)



### 高島市長に要望書提出

高島市遺族会 川合 良雄

8月7日、高島市役所において竹井昌夫高島市遺族会長が福井正明市長に要望書を提出した。今後も今まで以上に遺族活動に理解と戦没者遺族の福祉向上並びに各種事業の支援・参加を要請し、改めて次の3項目を要望した。

- ①市内各地域に建立されている忠魂碑・慰霊碑を可能な限り集合合祀し、慰霊祭の実効を図るとともに、その管理に高島市の関与を明らかにしていただきたい。
- ②毎年8月に開催されている高島市主催の「戦争犠牲者を追悼し平和を誓う市民の集い」について、戦没者遺族や福祉関係者だけでなく、4万8千人市民全てが英霊に慰霊と哀悼の誠を捧げていただくよう、あらゆる機会を通じて啓発に努めていただきたい。
- ③赤紙一枚で戦地に駆り出され、未だ帰還が叶わ



高島市役所で福井市長に要望書を手交する竹井会長と澤本部長青年部長

ない戦没者の遺骨がたくさんある。せめて市長・市議会議員は市民を代表して戦没地へ赴き、慰霊と哀悼の誠を捧げていただきたい。

後日、次の前向きな回答書をいただいた。

1 忠魂碑について  
・世界の恒久平和を願う大切な施設であると認識している。

・忠魂碑等の移設に対する国の補助制度はあるものの、市内の状況を見ると、補助要件への該当は難しく、また市自らが既存の忠魂碑の修復や移設、維持管理を行うことは非常に困難な状況である。

・こうした状況の中にはあるが、国の補助制度の利用実例を調査するなど、貴会の維持管理に関する負担が少しでも軽減されるよう検討していく。

2 戦争犠牲者を追悼し平和を誓う市民の集いについて  
・開催とその趣旨について、広く市民に周知・啓発できるように努めていく。

・新型コロナウイルス感染症の影響で、新しい生活様式の実践が求められる中、開催趣旨を勘案しながら、県内他市町の取り組みを参考に開催方法や内容を工夫していく。

3 戦没地に赴いての慰霊・追悼について  
・事業の実施時期が、公務の集中する時期と重なっており、参加が難しいのが現状である。公務の日程調整ができた場合は参加できるよう、今後も検討していく。

忠魂碑は神社敷地などに多く残る。GHQは忠魂碑を単なる慰霊碑ではなく、国家主義的な意図を有するものと捉え、大東亜戦争後かなりの数を撤去させた。一方、数は少ないが戦後に新しく設置されたものもある。戦後は自治体が忠魂碑に関して公金を支出することは、憲法第20条および89条の定める政教分離原則上問題になる場合があり、箕面忠魂碑訴訟など、いくつかの憲法訴訟の判例がある。

いずれにしても、これは難しい問題であり、高島市に限ったことではない。

### 慰霊碑の生け垣剪定と清掃並びに令和2年度戦没者追悼式

新旭町遺族会 川合 良雄



新旭町遺族会の会員が月当番制で行っている慰霊碑周辺の清掃作業

ら上がる階段も清掃が必要であり、3人程度の人手が必要である。

8月1日、役員8人が追悼式に備え、カイツカイブキの生け垣の剪定とツツジの刈り込みを行った。毎月の清掃では生け垣の剪定まで手が回らず、長年ほとんど剪定できていなかったため、両サイドが伸び放題で、剪定鋏を使っても真ん中まで届かない状態となっている。

昨年剪定をしたが、枝葉が伸びきってしまった、むやみに剪定をすると枯れてしまうこともあるので要注意である。

8月22日、慰霊碑前で令和2年度戦没者追悼式を行った。新旭町遺族会

新旭町熊野本にある新旭森林スポーツ公園多目的グラウンドの上に立派な慰霊碑が建っている。これは、平成元年8月に建立されたもので、裏面に英霊にこたえる会・新旭町戦没者遺族会・滋賀県護国神社宮司山本淺次郎謹書と記されている。

の会員が毎月交代で慰霊碑周辺の清掃を行っている。隣の藪には大きな櫛の木が生えており、その枝が慰霊碑を覆っている。夏の追悼式時には日陰となっており、これ以上大きくなると少々問題である。土手には桜の木が植えられており、通常毎月の清掃ではそれほど手間がかからないが、10・11月は落ち葉が多く、毎年会員親睦グラウンドゴルフ大会を行っている、下の多目的グラウンドか



剪定時期は過ぎたが、ツツジの刈り込み



戦没者追悼式に備え、横に張り出したカイツカイブキの生け垣の剪定を行う

は、毎年「高島市戦争犠牲者を追悼し平和を誓う市民の集い」に合わせて開催している。同日開催は高島市のマイクロバスを運行していただけるメリットがあるからだ。今年の追悼式は、コロナ禍の影響で役員ほか16人の参列となった。

当日は、早朝からテンの設営・生花の飾り付け・オケソクの盛り付け・焼香の準備等を行い、一旦帰宅した。式典は午後1時開式。黙祷の後、会長の式辞に続き、本福寺の本田ご住職に読経をお願いし、参列者全員が焼香を行い、戦没者の御霊の安らかならんことを祈った。終わりに、一井久雄新旭町遺族会長が閉式の挨拶を行い、今年の追悼式も無事終了した。午後1時20分、市のマイクロバスに乗り込み慰霊碑前を出発、安曇川公民館ふじのきホールで開催の「市民の集い」に参列した。気忙しいスケジュールではあるが、例年このパターンとなっている。

現在、新旭町遺族会の会員数は162人。最近の10年間で92人減少した。先の大戦の終結から75年が経過し、会員が高齢化する中、今後の遺族会活動と戦争の記憶を如何に後世に繋げていくかが大きな課題である。



### 令和2年度次世代戦跡訪問研修事業 並びにフィリピン戦跡慰霊巡拝の 中止を決定

次世代活動委員会と英霊顕彰委員会は10月、標記について最終的な協議を行い、新型コロナウイルスは一定の感染拡大は抑えられているものの、欧州などで依然猛威をふるっており、国内でも警戒を怠ることはできないこと、また、インフルエンザとの同時流行も想定され、先行きが見通せない状況であることから、第19回次世代戦跡訪問研修事業（令和3年3月26日～28日）並びにフィリピン戦跡慰霊巡拝を中止することに決定いたしました。

昨年度に引き続き中止することになり、誠に残念ですが、当会といたしましても苦渋の決断をいたしました。一日も早い終息を願うばかりです。

会長 大長 弥宗治

### 戦没者芳名帳を虫干し

大津市遺族連合会会長 服部 清和

梅雨の晴れ間の6月16日快晴。膳所英霊塔に納められている県下戦没者芳名帳を大津市遺族連合会役員で屋外にて虫干しをいたしました。

例年は遺族会館の部屋で虫干しをされていたようですが、今年は戦後75

周年節目の年でもあり、直接太陽の光を当て丁寧に虫干しをしようと考えたのです。

1ページずつ、白い手袋をはめて丁寧に風を入れ、太陽に当て、状態を確かめながら、十分な時間をかけて実施させていただきました。

何気ない単調な作業でしたが、英霊と面会しているような気持ちになり、時間の経つのを忘れたのは不思議なことでした。

私たちが高齢化が進み、今後維持管理をどのように進めていくのかが大きな課題です。



芳名帳を虫干しする役員ら

### コロナ禍の市民の集い 規模縮小して開催

高島市遺族会 川合 良雄

8月22日、高島市主催、高島市教育委員会・社会福祉法人高島市社会福祉協議会・高島市遺族会・高島市青年協議会主催による「令和2年度高島市戦没者を追悼し平和を誓う市民の集い」が安曇川公民館ふじのきホールで開催された。

例年、高島市民会館で行われてきたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、感染防止の観点から、規模縮小、時間短縮、会場変更の上、式典のみ実施された。参加者は遺族会員48人のみで、

今回は各種団体等への参列要請は行われず、ごちんまりとした式典となった。

参列者はあらかじめ配布されていた受付票に、住所氏名・緊急連絡先・体温を記入して入場した。

式典は、中川義人副市長の開会のことばで始まり、全ての戦争犠牲者を悼み、平和への願いを込めて1分間の黙祷を行った後、福井正明高島市長は式辞で「先の大戦では、この高島の地から2000人を超える方々が、遠



式辞を述べる福井高島市長

い異国の地で無念の最期を遂げられた」と改めて戦没者の御霊に哀悼の意を表し、また「今、新型コロナウイルス感染症拡大に直面している。人類の長い歴史の中で、ウイルスとの戦いは度々あった。その都度、人類の英知を結集して乗り越えてきた。一方、世界各地で戦争・紛争は後を絶たず、コロナウイルスの撲滅に對して、世界各国が英知を絞ってこの難局に立ち向かう、その思いを世界の恒久平和に繋げるべきだ」と述べ、「先人各位が築き上げてこられたこの高島市をしっかりと受け継ぎ、全ての市民の皆様が心豊かで、安心して過ごしていただける町作りに取り組みでいく」と誓った。

次に、廣本昌久高島市議会議長、清水鉄次・海東英和滋賀県議会議員、竹井昌夫高島市遺族会会長が追悼のことばを述べ、竹井会長は「私たち戦争犠牲者の遺族は、二度と悲惨な戦争はしてはならないと言いつつ、戦争の記憶が薄れてきた」「私たちは、自分たちの言葉で具体的に悲惨な戦争を伝えることが、歯止めになると考える。今後、実感に伴うことを出来るだけ訴えながら、二度と戦争してはいけないと言いつつ、思いを込めて」と会長としての決意を述べた。

続いて、参列者全員による献花が行われた。

最後に、高島市青年協議会の皆さんが「美しく豊かな自然に抱かれた高島市」「核兵器を廃絶し恒久平和を希う都市宣言」を朗読した。この平和都市宣言は平成18年3月30日に高島市議会で決議され、同日高島市が公告したものである。

現在、世界の核保有数は13410基。かつて米国の核政策に深く関与したウィリアム・ペリー元国防長官は、新著「核のボタン」で「今は冷戦期以上に核の大惨事が起きる可能性がある」と言う。「この危機は指導者にも市民にも理解されていない。より多くの人が危機を知り、指導者に行動を促すべきだ」「核戦争が起これば広島・長崎のように単発ではなく、核は数百発単位で一斉に放たれ、すぐに1千発単位の応酬になる。地球全体に劇的な気候変動が起きる『核の冬』をもたらす」と警告する。

「米国では、大統領一人に核兵器を発射できる権限を握らせている。しかし、大統領も人間。気分の浮き沈みもあるし、精神的な問題があったり、情緒不安定だったりする。ニクソンは数々の状況で酔っ払っていたし、ケネディは激しい痛みを抑える鎮痛剤を服用していた。トランプは衝動的だ」

「警報システムが故障して、偶発的に核戦争が始まりそうになったこと



追悼のことばを述べる竹井遺族会長

### 訂正

第263号（令和2年6月30日発行）

▼3頁の湖南市青年部長

誤 牧田 聡美

正 高畑 久良

事務局との連携が不十分でした。

▼6頁の戦没者等の遺族に対する特別弔慰金のご案内で

滋賀県健康福祉課の電話番号

誤 077-2813514

正 077-52813514

確認が不十分でした。

訂正し、おわびいたします。

が何度もあった。私がある限り3回経験している。米ソ冷戦期、夜中に電話がかかってきて、ソ連から米国に向けて200発の大弾道ミサイルがコンピュータ画面に映し出されているということがあった。誤警報だと直前であつた。問題なのは、大統領はミサイルが到達するまでの「10分かそれ未満」で判断しなければいけないことだ。誤信号や事故で核戦争が始まってしまいうリスクは、サイバー攻撃の可能性等により、さらに高まっている。



### コロナ禍の忠魂碑参拝

大津市遺族連合会  
堅田学区遺族会会長 田中正彦



堅田仏教和合会幹事 曹洞宗・今堅田海蔵寺住職の読経

昨年度、台風17号来襲により急遽中止となりました忠魂碑参拝、今年はお彼岸の中日の9月22日に予定通り厳修できました。コロナ禍の慰霊法要のため、遺族会全員の参拝は叶わず、班長が代表参拝という限られた人数となりました。

地元選出の県議会・市議会議員・各種団体の代表者参拝を受け、遺族会員とともに諸英霊をお慰めできましたことを喜んでおります。

#### 追悼のことは

本日、令和2年度堅田学区秋季戦没者慰霊法要(忠魂碑参拝)を挙行するにあたり、ここ浮御堂臨濟宗満月寺境内の忠魂碑に鎮まる堅田学区戦没者諸英霊に、堅田学区遺族会を代表して謹んで哀

悼のことはを申し上げます。

戦争を終えて、ひたすら平和を目指した「昭和」の時代、まさに平和一色となった「平成」の時代から、引き続き、みんな仲良く明るい時代へと平和を重んじる「令和」の時代に入り、2年目の堅田学区戦没者慰霊法要となります。

今、260余柱の諸英霊が鎮まる忠魂碑の前に立ちます時、我が国のため如何に多くの方々が、ひたすら身を挺して祖国を護り、礎となられたことかと強く認識することになります。

今年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、今まで経験したことのない苦難に直面しています。今年一度は靖國へを合言葉に進めてきた

遺族会の靖國神社昇殿参拝旅行は、昭和50年から途切れることなく続き、今回46回目を迎えて述べ1万8千人を超える参加者となり、靖國の森に鎮まる諸英霊と親しく語りながらご冥福を祈願する予定が、急遽中止となりました。それ以降、慰霊と平和を願う様々な遺族会の事業は大幅に規模が縮小されました。

滋賀県戦没者追悼式・滋賀県戦没者遺族大会は県下の郡市町遺族会代表者のみ参列となり、遺族の皆様一同が足を運ぶことが叶いませんでした。

8月15日の日本武道館、政府主催「全国戦没者追悼式」は、例年6千人を超える参列者となりますが、今年の遺族参列は190人となり、高齢の遺族を配慮して、20府県が

参列を見送ったと報じられました。滋賀県では、彦根市の滋賀県護國神社において県下戦没者慰霊祭が齊行され、私は堅田学区を代表して参列しました。県遺族会役員とともに滋賀県選出国會議員



マスク着用の忠魂碑参拝(堅田浮御堂・満月寺境内)

### おかあさんを訪ねて

立入 久子さん(享年85歳・湖南市)



広報で母が75歳の時に投稿した新聞がありました。

昭和19年4月20日、夫と2歳の長女、生後90日の次女を囲み、3人が幸せに暮らしていました。ところが、突然1枚の召集令状

秋たけなわ、田んぼから稲刈りの機械音が朝早くから聞こえ、営農組合の人が働いてくださっています。その風景を見ていると、母が懸命に働いていた姿を思い出します。旧甲西町

が届き、弾丸よけの千人針を渡したことが精一杯のことで、三雲駅の「バンザイ」の声で1週間後に、28歳で中支(現在中国の華中)へと出発いたしました。しかし、その年の8月14日

### 母との思い出

未亡人とお互いに励まし合い頑張りました。

このように広報に載っています。私は母から苦勞話はひと言も聞いていませんが、心に秘

に戦死。悲しいやら、悔しいやらで途方に暮れた数日。けれども毎日泣いてばかりいられませんでした。私がしっかりして2人の子供を守ろうと懸命に生きてきました。地域の重労働にも参加して、女性には役に立たないと言われながらも、近所の5人の戦争

めでいたのだと思います。私の結婚時、母は「男の人が来てくれればはって良かった」とひと言だけ喜びました。私たちは学校もやっつけてもらって甘えていたが、陰で支えてくれました。

母の愛は「山より高く、海より深い」と言いますが、厳しかった母でした。その母も85歳で他界しました。仏前に手を合わせ、「ありがとう」と言っています。

今回、女性委員会委員を担当させていただくことになりました。何分わからないことばかりですが、よろしくご指導ください。(湖南市 立入 美奈子)

参列を見送ったと報じられました。

滋賀県では、彦根市の滋賀県護國神社において県下戦没者慰霊祭が齊行され、私は堅田学区を代表して参列しました。県遺族会役員とともに滋賀県選出国會議員

た。

終戦から75年の歳月を迎えました今日、遺族の高齢化・減少化は避けることができません。遺族会員の減少により遺族会を解散したとの報道も目にしますが、堅田学区としては会員の減少があつたとしても遺族会の活動がしぼむことを許すわけにはいきません。

戦後80年、90年を目指して、未永く諸英霊の思いを実現すべく、今後の活動になお一層努めていきたいと思っております。そのためにも日本遺族会、滋賀県遺族会の新たな青年部組織の立ち上げを見習い、堅田学区における青年会員の入会を速やかに実現していく所

存でございます。

課題は沢山残されていますが、一歩一歩、地に着いた遺族会活動の展開と、英霊の顕彰に努めますことをお約束ご報告申し上げます。

終わりに、堅田仏教和合会のご任職をはじめ、法要にご参列いただきましたご来賓の皆様、平素のご支援とご指導を感謝申し上げます。忠魂碑の諸英霊に対して、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに改めてご冥福をお祈り申し上げます。追悼の言葉といたします。令和2年9月22日 堅田学区遺族会 会長 田中正彦